

# 令和7年度孤立集落状況把握・支援訓練 (山梨県市川三郷町・内閣府)

## 実施報告書 (概要版)

### 山梨県市川三郷町について

- 山梨県市川三郷町は、令和8年2月時点の人口は14,179人、面積は約75km<sup>2</sup>であり、山地と川に囲まれた平地と中山間地が広がり、農用地の占める割合が高い。
- 和紙、書、花火、印章、農業などの伝統的な地場産業や、歴史的な街並みが残る地域として知られている。



### 主な被害想定

- 町の土地面積の約6割を森林が占め、また一級河川である富士川、釜無川、笛吹川をはじめ多くの河川があり、暴風、豪雨、地すべり、山地災害など様々な自然災害が発生しやすい自然条件下にある。



## 訓練概要

- 訓練想定:最大震度6強の地震が発生し、山保地区へ通じる県道409号の複数箇所土砂崩れが発生し道路が寸断。徒歩でも通行が不可能な状態。山梨県内広域で大規模停電が発生し、山保地区全域も停電。
- 実施日時:【訓練実施前WS】 令和7年8月10日(日)18:00~20:00  
【孤立集落状況把握・支援訓練】令和7年8月31日(日)9:00~10:05  
【訓練実施後WS】 令和7年8月31日(日)10:15~11:15
- 主催:市川三郷町、山梨県
- アドバイザー:日本大学危機管理学部 秦 康範 教授
- 参加者数:43名
- 参加機関:山保地区帯那住民、市川三郷町消防団
- 訓練項目:住民の安否確認及び情報伝達訓練、孤立した際のヘリコプター要請訓練、個別避難計画に基づく避難訓練
- 訓練の特色:無線を使用し、住民の安否や被災の情報を、組長から町役場、町から県へ伝達する訓練を実施した。  
訓練前ワークショップで検討した個別避難計画案が現実的であることを住民と行政で検証し、個別避難計画を作成した。  
ヘリコプターによるけが人の緊急搬送要請の手順を確認し、情報収集から情報伝達までをシミュレーションした。

## 訓練の成果

### 【成果】

- これまで作成されなかった個別避難計画を、住民・町役場・県の職員が協力し、新たに作成することができた。また、実動訓練にて計画の実効性が検証できた。
- 公民館のアナログ電話が使用できることが確認できた。
- 夏場に災害が発生したことを想定した備えなどについて検討できた。
- 今回の訓練を受けて、山梨県では、県内他地域での訓練実施を検討することとなった。

### 【課題】

- 一時避難場所に避難した後どのように行動するのか、耐震性が不十分な公民館が避難所として適切かなど、安否確認・情報伝達後の行動について、今後検討することが必要である。

8月10日(日) 18:00~20:00 訓練実施前ワークショップ

- ・ 孤立状況を想定した備品の在り方、個別避難計画案の作成をテーマに、ワークショップを実施した。
- ・ 要支援者は近所で把握できているが、具体的な避難の手順までは決められていないという意見が挙がった。

▼秦アドバイザーによる講義



▼座談会でのグループ協議



8月31日(日) 09:00~10:05 孤立集落状況把握・支援訓練

- ・ サイレン吹鳴とともに、住民が一時避難場所である自治公民館駐車場に避難した。
- ・ 訓練前ワークショップで検討した個別避難計画案の実行可能性を再度確認した。
- ・ 組長から、住民の安否確認及び被災状況無線を使用して町役場に連絡した。
- ・ 緊急搬送が必要な住民を想定し、ヘリコプター要請の情報伝達を実施した。

▼避難する住民



▼組長が住民の安否を確認し報告



▼町役場及び山梨県職員とともに話し合う住民



▼組長から無線で情報伝達



▼公民館に設置されているアナログ電話



▼無線で県にヘリコプター要請



8月31日(日) 10:15~11:15 訓練実施後ワークショップ

- ・ 訓練の振り返り、今後の防災対策・訓練へ向けてグループに分かれて議論した。
- ・ 近所の方と一緒に避難できた、個別避難計画が作成されて良かった等の意見が挙がった。

▼グループになり訓練の振り返りを実施



▼グループごとに話し合った内容を全体で共有

